

各位

会社名 株式会社 モダリス
 代表者名 代表取締役社長 森田 晴彦
 (コード: 4883、東証グロース)
 問合せ先 執行役員 CFO 小林 直樹
 (TEL. 03-6822-4584)

自社モデルパイプラインとして新規に MDL-105 を追加するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、自社モデルパイプラインとして新規に MDL-105 を追加することを決定いたしましたので、お知らせいたします。

MDL-105 の適用症は、拡張型心筋症 (DCM) で、Titin と呼ばれる遺伝子をターゲットにし、これを発現上昇させることで治療を行います。Titin はヒトで最大のタンパク質で、そのサイズは約 35,000 アミノ酸、cDNA 長で 17kb となり、筋肉では 3 番目に多いタンパク質です。これまでの技術ではこのような大型のタンパク質の発現上昇をさせることは困難でしたが、当社は CRISPR-GNDM[®] 技術によってこれを実現することができました。また、心筋症はこれまで心臓血管領域として分類されてきましたが、原因遺伝子の背景的には筋肉疾患として捉えることが可能で、当社がこれまでに筋肉疾患で培ってきた技術やノウハウがそのまま応用できる疾患であると考えています。

MDL-105 は自社パイプラインとして研究を進めてきたパイプラインですが、その疾患の規模の大きさから開発の初期段階にありながら既に複数のバイオテック企業や大手製薬企業から提携の検討依頼を受けております。ライセンス契約の時期は未定です。

なお、当社が新規の開発品を自社パイプラインとして決定する際には、特許を出願したことに加えて事業性の評価が相応に認められること等を要件としておりますが、本日の取締役会においてそれが承認されております。

上記の MDL-105 を加えることで、自社モデルパイプラインは 5 品となり、協業モデルパイプラインの 3 品と併せて合計 8 品のパイプラインを有することになります。

なお、当期の業績への影響は軽微であります。

コード	疾患名 / 疾患領域*1	パートナー	ストラクチャー	初期開発/前臨床		臨床試験				
				探索/研究	前臨床	IND	第I相	第II相	第III相	
MDL-201	筋肉	アステラス製薬	ライセンス	→	→					協業モデル
MDL-202	筋肉	アステラス製薬	ライセンス	→	→					
MDL-205	中枢神経	エーザイ	共同研究開発	→						
MDL-101	CMD1A*2	自社	自社	→	→					自社モデル
MDL-102	中枢神経	自社	自社	→						
MDL-104	タウオバチー*3	自社	自社	→						
MDL-105	DCM*4	自社	自社	→						
MDL-206	エンジェルマン症候群	自社	自社	→						

パイプラインの拡張

*1: 具体的な適応疾患名は、出願した特許が公開されるまでは競争上の理由から非開示とする戦略を採用しており、また協業モデルパイプラインは契約上で原則非開示とされているため、記載していません
 *2: CMD1A=先天性筋ジストロフィー1A型
 *3: タウタンパク質による神経原線維変化。アルツハイマー病との相関が示唆されている。
 *4: Dilated Cardiomyopathy 拡張型心筋症